

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 復興支援 - 09

学校名・団体名	仙台市立高砂中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	独自の防災教育副読本「防災ノート」を用いた防災学習

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 はじめに

高砂中学校は仙台市内の中学校において、唯一津波による被災を受けた学校である。地域町内会や小学校と連携した教育活動も多く、高砂中学区内の小中合同の防災サミットを開催するなど小中連携防災教育も行っている。また、静岡や長野、兵庫、岡山、福岡など、多くの中学校と交流を持ち、防災や減災に関する意見交換の場を設定している。今年度からは学校と地域との連携をさらに強化し、生徒自身が地域の一員であることを自覚するとともに、地域防災訓練や夏祭り、美化活動等を通し、地域のために何ができるのかを考え、実践させる場を設けている。

しかし、震災から8年目を迎え、現在の生徒は震災当時未就学の状況となり、震災当時の地域の状況や復興のあゆみ、多くの方々からいただいた支援の状況が風化することが懸念される。

#### 2 「防災ノート」作成のねらい

##### (1) 防災の観点から

東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震では、高砂中学校がある宮城野区においても震度6強という強い揺れに加え、場所によっては波高10m以上にも上る巨大津波が発生し、この高砂地区をはじめとした太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。この大震災を経験した当時の生徒にとっては恐怖や悲しみ、避難生活、使えなかった体育館、できれば思い出したくないこと、悔しいことがたくさんあったことが推測される。しかし、それ以上に、この大震災の経験を通して学んだこと、心に刻んだことがたくさんあったのではないかと考える。

震災から8年目を迎えた今、私たちはこれらをしっかりと受け止める時期にきている。当時の地域の方々や生徒の思いを知り、考え、伝えることがこれからの高砂中学校の生徒に必要なものであると考える。

今回作成する防災ノートは、高砂中学校の生徒や保護者の方々の思いや経験を多く取り入れるとともに、防災ノートを活用した学習を通して、貴重な経験を生かし、今後、同様な災害が起きても自分で正しく行動し、自分の身を守ることができ、地域のために積極的に行動できる生徒を育てたいと考える。

##### (2) 復興・支援の観点から

東日本大震災における避難所生活では、多くの高砂中学校の生徒が地域の支援に携わった。小さな子どもたちの遊び相手やプールの水を利用するための運搬、物資の搬入など、多くの活動を自主的に行った。震災から8年を迎えた現在、当時の中学生の思いを考えるとともに、当時の生徒と同じ年齢の自分たちが、人のために何ができるのか考える機会をこの防災ノートを用いて設定したい。

また、東日本大震災における復興活動には多くの方々からの支援をいただいている。この点についても防災ノートに記載しており、人々に対する感謝の気持ちや、自分自身が支援する立場となったときの判断力・対応力を育てる内容としたい。

##### (3) 他校との交流の観点から

震災を経験した学校に学ぼうと、現在も多くの学校が高砂中学校と交流を持っている。また、震災によって枯死したサクラの存在を知り、新たに地元の天然記念物であるタカトオコヒガンザクラを寄贈した長野県の東部中学校との交流も活発である。他校交流の経緯についても、この防災ノートを通じて知らせたい。

#### 3 期待される成果

震災から8年を迎え、被害が大きかった地域でも風化が始まっていると感じる。現在の中学1、2年生は震災時未就学であり、震災の記憶が曖昧であることが大きな原因である。しかし、この地域に生まれ、育った生徒たちには「震災時にこの地で何が起り、学校や地域はどのような苦勞をしたのか。そして、それに対し、周囲からどのような支援を受けたのか。」をこの防災ノートの内容から学び、語り継ぐことをねらいとしている。同時に、人とのつながりを通して震災の状況、協力することの大切さを学ぶこともねらいとしている。

また、防災や減災についても生徒間の意見交換を通して意識を高め、表現力の向上もねらいとしている。

#### 4 作成した防災ノートを用いての研究実践

1学年では「自助」のテーマのもと、減災について少人数で意見交換し、その考えを共有する防災学習を、防災ノートを用いて行った。

##### (1) 単元名

災害への対応 ～自分の命を守る～ もしも大地震が起こったら

##### (2) 単元（題材）について

###### ① 指導事項の概要

防災ノートを活用し、大きな災害が起きたときに、自分の命をどのようにして守るかということについて考えさせる。東日本大震災で体験した災害が「恐ろしかった」だけで終わらせないようにするために、日頃から自分たちがどのように行動したらよいかを考えさせる。

###### ② 指導における留意点

学校で活動している際に大地震が起こったときの行動について考えさせる。小学校からこれまで行ってきた避難訓練などを通して、行動についてはおおむね把握しているが、学校内で起こりうる危険状況を踏まえ、安全確保の手順や優先順位について考えさせたい。また、それぞれの考えを共有する話し合い活動を通して、かけがえのない自分の命の大切さを改めて見つめさせるとともに、どのように行動することが適切なのかについて考えさせたい。さらに、不意の災害時に命を守るための術を学ばせ、いざという時に集団の中で命を守るための適切な行動ができるようにしたい。これらのことを通して、日頃からの備えこそが大切なことに気付かせたい。

##### (3) 授業の概要

###### ① ねらい

災害時に起こりえる学校内等での危険の状況に応じて具体的に予測し、安全確保の手順や優先順位を整理することができるようにする。

###### ② ねらいに迫るための手立て

・写真の活用による視覚化 ・ホワイトボードによる視覚化・焦点化 ・グループ討議による共有化

###### ③ 学習過程

- ・校舎内の写真5カ所（通常時）を黒板に貼り、班ごとの担当を決めた後、校舎の中にいるときに地震が発生した場合、「避難するまでにその場所で考えられる危険」を考え、ワークシートに記入する。
- ・班内で発表し合い、ホワイトボードにまとめ、黒板に貼る。
- ・防災ノートの校舎内の震災後の写真を見る。
- ・全員がホワイトボードを見て、内容が似ていてまとめられる危険はどれか考え発表し、命に関わる危険性の高いものを3つ考え、理由とともにワークシートに記入する。
- ・学級全体で、記入した内容について、理由とともに発表し「命に関わる危険性の高い内容」を3つ選ぶ。
- ・対処法を各自ワークシートに記入し、記入した内容について、班内で発表し、ホワイトボードにまとめる。
- ・ホワイトボードを黒板に貼る。学級全体で、班ごとに1つずつ対処方法を発表し、全体で意見を共有する。



防災ノートで震災当時の被災状況を確認

#### 5 研究の成果

今回の防災学習を通し、生徒からは「安全に生活するためには身の回りのものの配置に気を付けなければいけないことが分かった」や、「中学生の私たちでも減災について考え、発言することが大切ということを知ることができた」など、減災に向け自身で考え、表現するきっかけとなったことがうかがえた。また、防災ノートに掲載されていた震災当時の校舎内の写真から「自分の住んでいる地域が当時どのような状況で、どのような支援を受けたのか知りたくなった」「自分や他の人の身を守るために、必要な学習だと感じた」等、防災学習の重要性を感じ取る様子も見られ、防災ノートによる学習効果が確認できた。



重要課題と対処法の発表のようす

#### 6 終わりに

先述の通り、高砂中学区の復興にあたり、多くの人々の協力があり、本日の環境があることを忘れてはならない。防災ノートを用いて効果的な防災学習を実践し、判断力、対応力、表現力を育てるとともに心の醸成を図りたい。